



DX 企画系 ～DXの“X(トランスフォーメーション)”の研修～

受講料無料

<企業を取り巻く現状と課題>

■IT ユーザー企業(一般企業):

経営やIT環境の急激な変化への素早い対応、社内IT人材の確保・育成
 ⇒システムの内製化や既存人材のデジタルシフトなどによる組織のDX推進

■ITベンダー企業(情報系企業): システム内製化などを背景とした“単なる”開発受託業務の減少
 ⇒既存の受託案件を提案型に変えていく、企画提案にDXを絡めていく



本研修は企業の課題解決や新事業開発に必要な“実務能力”を育成
 (自社や自社サービスをテーマとした現状分析、課題の明確化、解決策立案、新事業開発などの企画系業務)

- 課外実習は**自社**(または支援先企業)の**実テーマ**、生成AI活用による実習負担軽減にも配慮
- 忙しい中核人材の皆様の参加を想定しているため「**業務都合による遅参・欠席**」は柔軟に対応

(1) 企画系基礎素養 ～課題発掘や解決策検討などの企画系業務に必要な基礎を養う～

科目名(定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【XB-1】企画系業務基礎素養 (業務分析・提案編)	3h×4回(12h) +課外実習	10/6(火)、10/20(火)、10/27(火)、 <u>11/13(金)</u> 最終回の成果発表会は集合開催

(2) 改善型DX ～既存業務の効率化や生産性向上を目指す～

科目名(各定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【XY-1】 DX基礎研修(上期)	3h×2回(6h)	6/15(月)、6/22(月) 完全オンライン
【XY-2】 DX推進実務者育成研修	3h×4回(12h) +課外実習	7/2(火)、7/10(金)、7/17(金)、 <u>7/24(金)</u> 最終回の成果発表会は集合開催
【XD-1】 DX基礎研修(下期)	3h×2回(6h)	12/15(火)、12/22(火) 完全オンライン
【XD-2】 DXソリューション企画研修	3h×4回(12h) +課外実習	1/15(金)、1/27(水)、2/9(火)、 <u>2/25(木)</u> 最終回の成果発表会は集合開催

(3) 変革型DX ～事業の高度化や新事業開発を目指す～

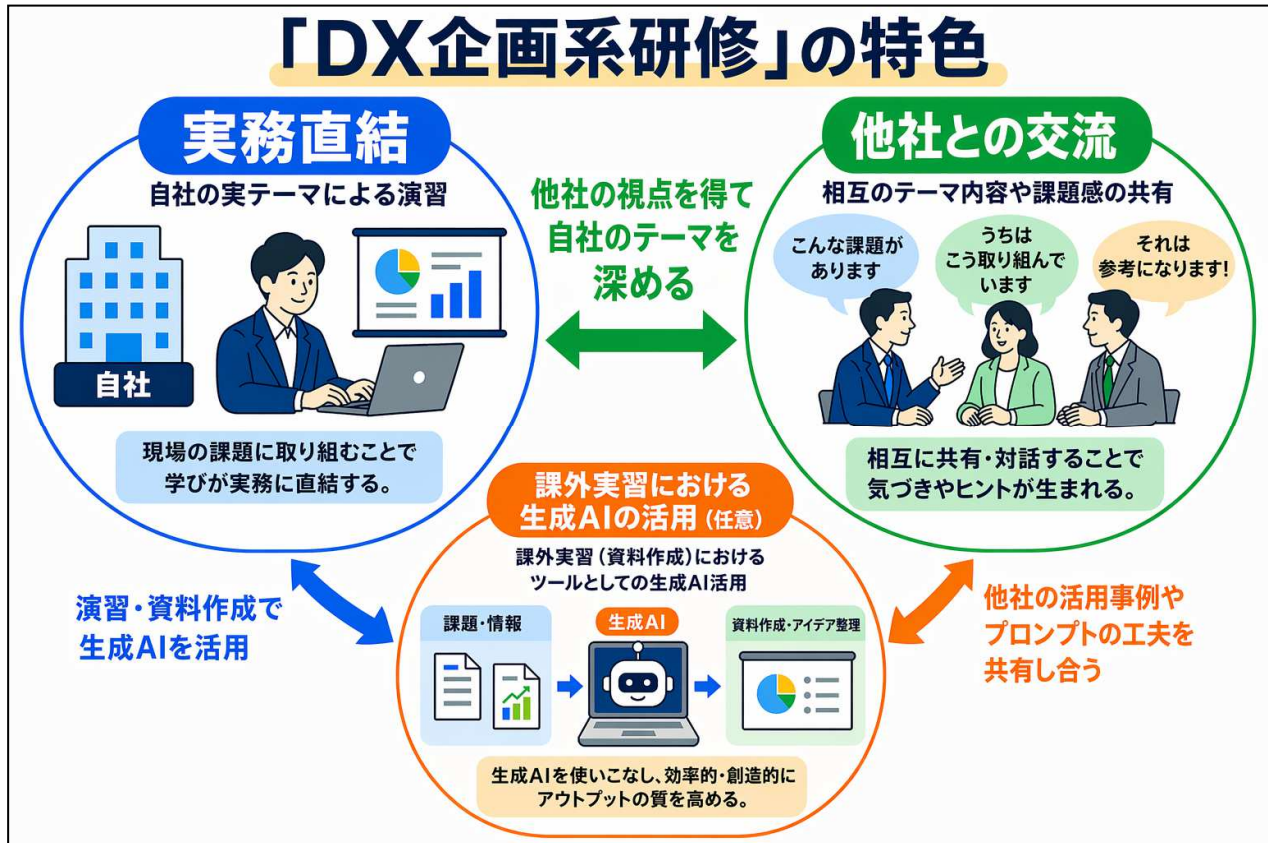
科目名(各定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00～17:00)
【XZ-0】 ビジネスDX人材育成	3h×12回(36h) +課外実習	8/25(火)～ <u>12/11(金)</u> 下記の全日程(期間中の遅参・欠席は柔軟に対応)
【XZ-1】 環境分析と事業企画	3h×4回(12h) +課外実習	8/25(火)、9/8(火)、9/15(火)、 <u>10/2(金)</u> 最終回の相互評価会は集合研修
【XZ-2】 ビジネスモデル&マーケティング	3h×8回(12h) +課外実習	10/9(金)、10/16(金)、10/23(金)、 <u>11/6(金)</u> 11/17(火)、11/27(金)、12/4(金)、 <u>12/11(金)</u> 中間評価会及び最終成果発表会(下線)は集合開催

■主催: 一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(MISA)(宮城県委託事業)

■対象:宮城県内で事業を行っている企業(業種・業界・企業規模は問わず)

■受講料:無料(宮城県委託事業のため)

※課外実習の負担軽減のために使う「生成 AI ツール」(利用は任意)のサブスク費用は自己負担です
(法人として Google Workspace の Standard プラン以上を契約している場合、Google AI の基本機能が標準で使えます)



自社の実テーマを題材とした課外実習は大変有意義である一方、負担軽減が大きな課題でした。

2026年度は資料作成等における生成AIの積極活用を推奨することで負担軽減を図ります。

※会社によってAIに対する考え方は様々であり活用が制約される会社もあるので、DX企画系研修におけるAIの利用はあくまで“任意”です。研修では「AIによって効率的に作業ができる」ことを知っていただくことに主眼を置いた研修運営をいたします。

■お申込: MISA ホームページの本研修募集ページに用意している別紙「申込書」に必要事項を記入の上、MISA 事務局宛にメールにてお申込みください。

<お申込み・お問合せ先>

一般社団法人 宮城県情報サービス産業協会(MISA) 事務局
仙台市青葉区上杉1丁目6-10 EARTH BLUE 仙台勾当台ビル 5F
TEL: 022-217-3023 e-mail: misa@misa.or.jp

技術系/企画系各研修の「詳細」及び「申込用紙」は MISA ホームページに別途用意しています。

詳細は MISA ホームページをご参照の上、メール(または FAX)にてお申込みください。

<https://www.misa.or.jp/>

misa

検索

◇「DX 企画系研修」は事業企画や課題解決などのいわゆる“業務ノウハウ”的な内容が中心となります。

⇒生成 AI や DX ツールの“利活用そのもの”の内容を期待されている場合は期待値が異なりますので、別途開催している「DX 技術系」の各研修の受講をご検討ください。



(1) 企画系基礎素養

将来的に自社の業務改革やDX推進、または客先に対するこれらの提案を担うことが期待される中核人材及びその候補者に対し、企画系業務において不可欠となる実務基礎素養を育成します。

【XB-1】企画系業務基礎素養(業務分析・提案編)

社内外向けの企画提案を演習テーマとした上で、自社や利害関係者の課題整理、それらを取り巻く社会背景の整理、課題解決に向けた取組内容や期待効果の提案書への落とし込みなどの相互議論型のケーススタディを通じ、業務分析や企画提案の実践的な経験値を蓄積します。

前提: 特になし

科目名(定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00~17:00)
【XB-1】企画系業務基礎素養 (業務分析・提案編)	3h×4回(12h) + 課外実習	10/6(火)、10/20(火)、10/27(火)、 11/13(金) 最終回の成果発表会は集合開催

○課外実習: 具体的なテーマを持つ参加者はそのテーマ、特にテーマを持たない方は講師提示テーマを基にした個人またはチームでの演習を行います。

(2) 改善型 DX

生産性向上や業務効率化などの現状業務の改善を主眼としたDX推進の考え方とスキルを育成します。主に企業内のDX推進やデジタル担当者を主な受講対象とします(業種・業界・企業規模は問わず)

DXを“業務”という文系的な視点で捉えた研修である点が独自の特色となっており、一般企業だけでなくITベンダーや産業支援機関職員などのDX推進支援者が知見を深める場としてもふさわしい研修です。

【XY-1】【XD-1】DX基礎研修

DX推進者として身につけるべき実務基礎知識を学習します。経済産業省の「デジタルスキル標準」「DXリテラシー標準」を実務的観点から紐解く形で学びます。曖昧で分かりにくいとされる“DX”という概念の本質を理解し「自社なりのDX」のきっかけを形成します。

前提: 特になし 課外実習: なし

科目名(各定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00~17:00)
【XY-1】DX基礎研修(上期)	3h×2回(6h)	6/15(月)、6/22(月) 完全オンライン
【XD-1】DX基礎研修(下期)	3h×2回(6h)	12/15(火)、12/22(火) 完全オンライン

※本研修では課外実習や発表会の開催などはありません(ディスカッションなどを含め全て研修時間内で完結)

【XY-2】DX推進実務者育成研修

自社(または支援先企業)における実業務の課題発掘や解決策の立案の実体験を通じ、「業務の目線から追ったDX」の理解を深めます。「何に”気づいて”どのように”デジタル活用を推進するのか」という、DX推進人材に不可欠なDXの“X”の実務能力を育成します。

前提: 「DX基礎研修」レベルのDX推進実務(業務)に関する基礎知識

課外実習: DX推進企画案(社内向け説明資料または社外向け提案資料)の策定

(国や自治体のデジタル系補助金の申請書策定などを課外実習テーマとすることも構いません)

科目名(各定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00~17:00)
【XY-2】 DX推進実務者育成研修	3h×4回(12h) + 課外実習	6/29(月)、7/7(火)、7/14(火)、 7/24(金) 最終回の成果発表会は集合開催



【XD-2】DX ソリューション企画研修

DX ツールを使った課題解決(ソリューション)を学びます。“DX 関連のクラウドサービス”や“ソフトウェア商品”などの IT ツールを体系的な視点で機能や技術面から見るのではなく、文系的な視点(ツールの機能をどう実務に生かすのか)から見たソリューションの企画を実践します。

前提:「DX 基礎研修」レベルの DX 推進実務(業務)に関する基礎知識

課外実習:DX ソリューション企画案(社内外向け説明資料等)の策定

(国や自治体のデジタル系補助金の申請書策定などを課外実習テーマとすることも構いません)

科目名(各定員8社)	時間数	計画日程(各日 14:00~17:00)
【Y-2】 DXソリューション企画研修	3h×3回(9h) +課外実習	1/15(金)、1/27(水)、2/9(火)、 <u>2/25(木)</u> 最終回の成果発表会は集合開催(※下線)、ゲスト講師としてIT 商品販社の実務家を招聘予定

<【XY-2】【XD-2】の課外実習について>

- ▶ 原則として実テーマ(自社または客先の業務課題やデジタル化テーマ)があることを前提に進めます。
- ▶ テーマ自体は身近なテーマで大丈夫です(“紙のデジタル化”“手作業のIT化”などでもOK)。身近なテーマは成果にもつながりやすく、DX 推進の基本としても実は非常に重要です。
- ▶ 国や自治体のデジタル化補助金の申請書策定自体を課外実習テーマとする(課外実習の中で実際の申請書を策定してしまう)ことも構いません。補助金の申請書を自ら策定できる企画力は、DX 推進において極めて重要な実務スキルです。研修ではこの手の申請書や企画書の生成 AI による効率的な作成にも触れる予定です。

(3)事業企画(変革型 DX)

DX の“X”を“改善”ではなく本来の“変革”の意味で捉えた際の“デジタルとビジネスモデル”の変革について、事業内容の企画から事業化までの一連のプロセスを体系的/実践的に学びます。

【XZ-0】ビジネス DX 人材育成

商品、サービスなどの新事業展開や既存事業の事業変革をテーマとした自社の実ビジネスの企画検討を行います。社内外の環境分析からビジネスアイデアの検証、DXやデジタル的知見も踏まえた事業企画案策定、企画提案書策定までの新事業創出に必要な全プロセスを研修の中で実践します。

将来的に各企業の経営管理の中核を担うことが期待される中核人材に不可欠な「実践的なビジネス感覚」や「DX 推進型事業の創出」の経験値を形成します。

前提:特になし

課外実習:事業アイデアシート、事業計画書、サービスチラシ/カタログの策定など

⇒各自の参加目的や狙いに応じたアウトプットを形成していきます。デジタル絡みでは、例えば「サブスク管理」などが新しいビジネス DX につながるキーワードといえます。

科目名(各定員10名程度)	時間数	計画日程(各日 14:00~17:00)
【XZ-0】 ビジネス DX 人材育成	3h×12回(36h) +課外実習	8/25(火)~ <u>12/11(金)</u> 下記の全日程(期間中の遅参・欠席は柔軟に対応)
【XZ-1】 環境分析と事業企画	3h×4回(12h) +課外実習	8/25(火)、9/1(火)、9/15(火)、 <u>10/2(金)</u> 最終回の相互評価会は集合研修
【XZ-2】 ビジネスモデル& マーケティング	3h×8回(24h) +課外実習	10/9(金)、10/16(金)、10/23(金)、 <u>11/6(金)</u> 11/17(火)、11/27(金)、12/4(金)、 <u>12/11(金)</u> 中間評価会及び最終成果発表会(下線)は集合開催

○本研修は事業変革や変革型 DX に全振りで開催します。既存事業の業務効率化や生産性向上などを意図する場合は「DX 推進実務者研修/DX ソリューション企画研修」への参加を検討願います。



<研修参加にあたって>

■参加の環境について

オンライン研修は Zoom/Slack を利用します。「業務・企画系」の各研修は双方向のディスカッション主体型研修であるため、研修内で参加者に発言いただく機会も多々あります。参加にあたっては社内会議室やご自宅等の専用の受講場所からの参加を原則とし、**共用オフィスからのヘッドセットを用いた参加は原則不可とします。**

1社から複数以上のメンバーで参加の場合は、社内会議室に集まっての参加を推奨します(社内会議室をサテライト拠点とみなして研修を運営)。ただし在宅勤務を推奨している会社はこの限りではありません。

■守秘義務・知財の扱い

各社アウトプットの相互評価を行う関係上、研修の中では相互に各社の情報を共有することが必須となりますので、あらかじめその旨をご理解の上で参加ください(固有名詞などを匿名化していただくことは可)。また、研修内で相互に知り得た情報の研修以外での利用は不可である旨をご理解いただくことが参加条件となります。

■講師(ファシリテーター)

- ・一般社団法人宮城県情報サービス産業協会(MISA) 事務局 企画プロデューサー 庄子 栄光
(宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家)
- ・株式会社仙台情報サービス 代表取締役 佐藤 元
(宮城県「みやぎ認定 IT 商品」派遣専門家、宮城県中小企業等デジタル化支援事業補助金アドバイザー)

⇒各研修は各企業の「環境分析」、「現状の課題そのもの掘り下げ」、「事業機会の掘り起こし(企画)」などから行う点が特色です。これまで気が付かなかった自社の強みや新たな方向性を見出し、これらに気づきを持つことが研修の大きな狙いの一つです。この手の研修は経営の専門家等に依頼するのが難しいため、MISA 事務局の本委託事業担当者の直営研修とし、実務的な観点から研修を展開することとしております。

◇本事業は IT だけではなく幅広い業界を対象とした地域産業デジタル人材育成事業です。

- ・ ユーザー企業と IT 企業合同の研修のため、研修という中立の場を通じた参加相乗効果も見込めます
- ・ IT 企業は自社における DX 推進の他、ユーザー企業の DX 支援人材の育成にも対応できます

◇“宮城県内に拠点を有し事業を行っている企業であること”だけが企業としての参加要件です。

- ・ MISA 会員の有無、本社所在地、**実際の参加者の居住地や勤務地自体は問いません。**遠隔地からの参加の場合、集合開催の日程をオンライン参加にすることも可能です。
- ・ 本事業は中小企業向け事業ではないため**大企業及びその出資子会社などからの参加も可能**です。
- ・ 1社からの参加の上限はありませんが、多人数となる場合調整させていただく場合があります。

課外実習について(重要)

- ・ 本研修は研修業者によるケーススタディ主体のパッケージ化された研修ではありません。必要最小限の研修時間で最大限の成果をお持ち帰りいただけるよう、**貴重な研修の時間は“ディスカッションに全振り”**とし、**各自の演習はあえて課外実習として外出し**にしていますのでご理解ください。
- ・ 課外実習の分量は一律ではなく**各自の“かけられる時間”に配慮し個別に設定**します。例年、“紙1枚”の企画概要から相当量の“企画提案書”まで多彩なアウトプットが形成されています。
- ・ 「DX 企画系」の各研修は技術研修ではありませんので生成 AI 自体の講義は行いませんが、課外実習の省力化を図るべく**資料作成などにおけるツールとしての積極的な生成 AI 活用**を推奨します。(生成 AI 活用に関しては、課外実習を通じ“やりながら体得する”という考え方で研修を運営)

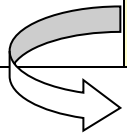
⇒利用する生成 AI の種別(Gemini、ChatGPT、Copilot など)は問いません。自社で既に使っているものがあればそれを使うことで構いません。

⇒法人として Google Workspace の Standard プラン以上を契約している場合は標準で Google AI(Gemini、Notebook LM など)の機能が使えます。

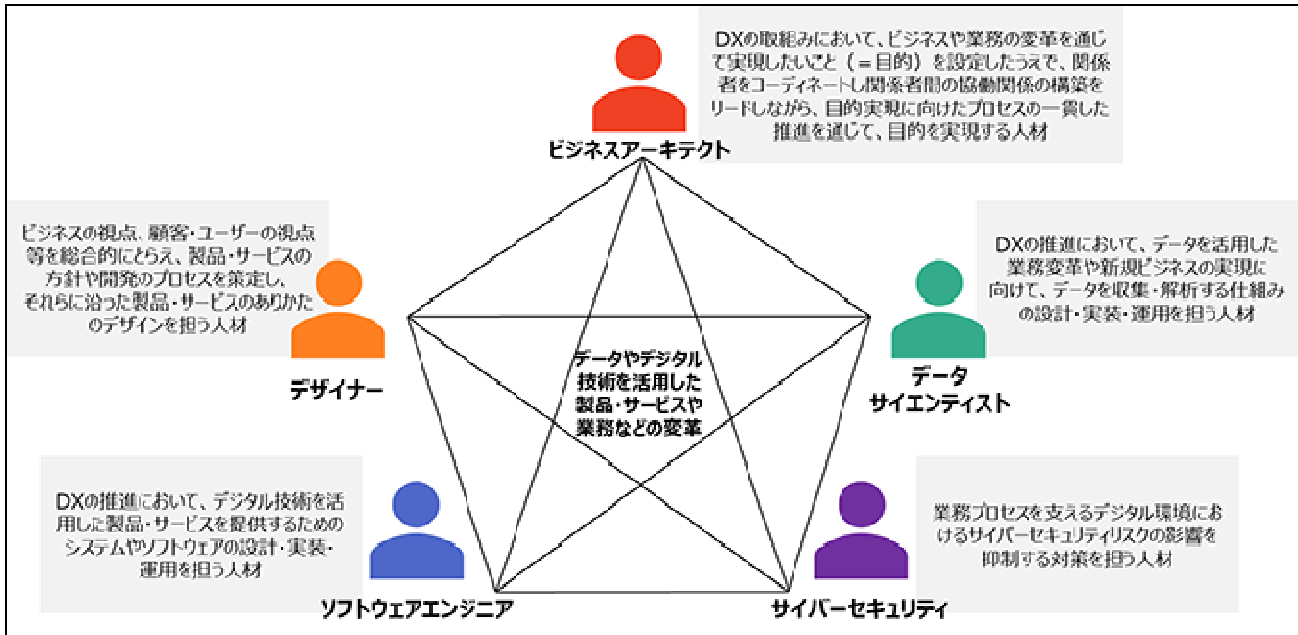


(参考)経済産業省「デジタルスキル標準」との関係について

デジタルスキル標準	DX リテラシー標準 (DSS-L)	全てのビジネスパーソンが身につけるべき能力・スキルの標準 (DX を自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになることが狙い)
	DX 推進スキル標準 (DSS-P)	企業や組織の DX の推進において必要な人材のうち、主な人材を5つの「人材類型」に区分して定義したスキル標準



「DX 推進スキル標準」人材類型の定義 (情報処理推進機構)



ローラー一覧

- 人材類型をさらに詳細に区分し、以下のとおりローラーを設定している。

人材類型	ロール	DX推進において担う責任
ビジネスアーキテクト	ビジネスアーキテクト (新規事業開発)	新しい事業、製品・サービスの目的を見出し、新しく定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (既存事業の高度化)	既存の事業、製品・サービスの目的を見出し、再定義した目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
	ビジネスアーキテクト (社内業務の高度化・効率化)	社内業務の課題解決の目的を定義し、その目的の実現方法を策定したうえで、関係者をコーディネートし関係者間の協働関係の構築をリードしながら、目的実現に向けたプロセスの一貫した推進を通じて、目的を実現する
デザイナー	サービスデザイナー	社会、顧客・ユーザー、製品・サービス提供における社内外関係者の課題や行動から顧客価値を定義し製品・サービスの方針 (コンセプト) を策定するとともに、それを継続的に実現するための仕組みのデザインを行う
	UX/UIデザイナー	バリュープロポジション [※] に基づき製品・サービスの顧客・ユーザー体験を設計し、製品・サービスの情報設計や、機能、情報の配置、外観、動的要素のデザインを行う
	グラフィックデザイナー	ブランドのイメージを具現化し、ブランドとして統一感のあるデジタルグラフィック、マーケティング媒体等のデザインを行う
データサイエンティスト	データビジネスストラテジスト	事業戦略に沿ったデータの活用戦略を考えると、戦略の具体化や実現を主導し、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
	データサイエンティスト/ロジカル	データの処理や解析を通じて、顧客価値を拡大する業務の変革やビジネスの創出につながる有意義な知見を導出する
	データエンジニア	効果的なデータ分析環境の設計・実装・運用を通じて、顧客価値を拡大する業務変革やビジネス創出を実現する
ソフトウェアエンジニア	フロントエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にインターフェース (クライアントサイド) の機能の実現に主たる責任を持つ
	バックエンドエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの機能のうち、主にサーバサイドの機能の実現に主たる責任を持つ
	クラウドエンジニア/SRE	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの開発・運用環境の最適化と信頼性の向上に責任を持つ
	フィジカルコンピューティングエンジニア	デジタル技術を活用したサービスを提供するためのソフトウェアの実現において、現実世界 (物理領域) のデジタル化を担い、デバイスを含めたソフトウェア機能の実現に責任を持つ
サイバーセキュリティ	サイバーセキュリティマネージャー	顧客価値を拡大するビジネスの企画立案に際して、デジタル活用に伴うサイバーセキュリティリスクを検討・評価するとともに、その影響を抑制するための対策の管理・統制の主導を通じて、顧客価値の高いビジネスへの信頼感向上に貢献する
	サイバーセキュリティエンジニア	事業実施に伴うデジタル活用関連のサイバーセキュリティリスクを抑制するための対策の導入・保守・運用を通じて、顧客価値の高いビジネスの安定的な提供に貢献する

脚注 バリュープロポジション: 顧客が求める価値を把握した上で、ビジネスのペイパビリティを踏まえて決定される、企業が製品・サービスを購入する顧客に提供する利益や、顧客がその製品・サービスを買うべき理由

「DX 推進スキル標準」人材類型毎のローラー一覧 (情報処理推進機構)



DXを推進する上で「ビジネスアーキテクト」は絶対に必要な人材類型

・特に中小中堅企業において、5つの人材類型を全て自社で賄うことは非現実的

ビジネスアーキテクト以外の4類型は“外注”でも構わない



【DX 企画系各研修における対応】

- ・中核となる「ビジネスアーキテクト」を人材類型(1)として設定
- ・人材類型(2)として「ビジネスアーキテクト」以外の各類型を研修の内容の中にエッセンスとして散りばめる形で設定
- ・“DXソリューション企画研修”のみデザイナーの“サービスデザイナー”に該当

DX 推進スキル標準と各研修との対応表（類型（1）及び類型（2）の各要素が含まれる）

人材類型(1)	人材類型(2)	研修名	研修における「類型」の反映に関する説明
ビジネス アーキテクト (各ロール共通)		企画系業務基礎素養(業務分析・提案編)	企画書や提案書などを策定し発表する中で、 ビジネスアーキテクトのスキルの根底となる「論理的思考力+コミュニケーション能力」 などの DX 推進基礎素養を育成
ビジネス アーキテクト (既存事業の高度化／社内業務の高度化・効率化)	ソフトウェアエンジニア	DX 基礎研修(上期)(下期)	DX 推進プロセスの基礎を学ぶ中で、業務知識の整理やそれを踏まえた分析・設計について講義及びディスカッションを実施。“作ったが使われない”にならないように、 システムを使う人の目的やゴールの明確化を重視 した内容として反映
	サイバーセキュリティ	DX 推進実務者育成研修	DX 推進企画案の策定実習を行う中で、 実務的に認識すべきセキュリティのリスクや組織的な対策、リテラシー などについて講義を行うと共に実際の企画案へも反映(例:シャドーIT、資産管理、ランサム対策 etc)
ビジネス アーキテクト (新規事業開発)	データサイエンティスト	ビジネス DX 人材育成 ・XZ-1 環境分析 ・XZ-2 ビジネスモデル	変革型 DX(新規事業開発や既存事業の高度化)の検討の中で、 市場分析 (マーケットリサーチ)における データの収集・分析・解析を通じ実践的に学習 (例:フェルミ推定 etc) (→データビジネスストラテジスト)
デザイナー (サービスデザイナー)		DX ソリューション企画研修	“サービスデザイナー”のスキルを育成(適切な製品・サービスの選定や導入を企画できる実務能力)

(参考)DX 企画系研修における道具としての AI 活用のキーワード

- ◆どこから適切な情報をスピーディーに収集してくるのか
- ◆資料作成における AI の効果的な使い方
→ 任せっぱなしではなくツールとしてつかいこなす。AI は使えば使うほど活用スキルが上がるが、使わないと AI に振り回されて信用できなくなるケースが多い。
→ 相談相手、文章チェック(契約書などを含む)
- ◆既存のローカルファイルの編集(Claude Cowork、Copilot Cowork など)

⇒生成 AI の業務活用の視点で知っておくべきこうした内容を、研修の中で資料作成等のツールとして生成 AI を使いながら理解していきます